

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（高校生コース）留学結果報告書

甲府西高校  
堀松 奏斗

私がニュージーランドへの留学を決めた主な理由は「異文化の体験」、「ニュージーランドの教育について学ぶ」の2つでした。

もともと海外の文化に興味があり、山梨県の主催する短期交換留学プログラムに参加をしてきましたが、より長い期間海外で生活し、言葉や文化について学びたいと思いました。また以前から日本の教育について疑問を持っていたことから、移民や先住民などを含む多民族国家における「教育」に興味を持ちました。

留学先の都市は Palmerston North という北島の中規模都市、大学や高校が数多くあり、留学生にも人気の学生都市です。受け入れ先である Palmerston North Boys' High School は生徒数約 1700 人とニュージーランドでも大規模な男子高校です。留学生は 100 人近く在籍していますがほとんどがアジア出身です。

ニュージーランドは小学1年生から高校3年生まで合計 13 学年あり、学年の単位は year が使われています。このうち year9 から year13 が高等学校に所属し、NCEA という教育システムが採用されています。年に Internal（学校内試験）と External（外部試験）の二つの試験があり、そこで得られる Credits（単位）の合計で次の学年に進めるかが決まります。また授業、テスト共に日本の暗記主体のものとは違い、多くの教科が自分の意見を記述する形式です。与えられたテーマについて、授業で学んだことや自身の経験を交えエッセイを書きます。また授業は 20 教科以上の選択肢の中から、自分の興味と学年に応じて 5～6 教科を選ぶことができます。私はビジネス、英語、経済、数学、デジタルの 5 教科を履修しました。

ニュージーランドは人口 500 万人のうち約 17% を先住民のマオリ系が占め、またアジアやヨーロッパからの移民を多く受け入れてきた歴史があることから多民族国家として知られています。そのため学校ではマオリ族の伝統の踊りであるハカや複数の外国語、英語が母国語でない生徒のための授業など、日本の高校より生徒に合わせ様々なプログラムが用意されています。各学年には Dean と呼ばれる教員が在籍し、生徒は担当の Dean に授業や進路について相談することができます。

ニュージーランドへの 1 年間の留学を通して学んだのは、それぞれの個が大切にされているということです。現地の高校には言語や工学、芸術など生徒一人ひとりに応じて多様なプログラムが用意されており、日本の

## 山梨県若者海外留学体験人材育成事業（高校生コース）留学結果報告書

高校に比べ幅広い教科選択が可能です。またテストでは問題や事象に対し、自身の経験や価値観に基づく見解を論述し、他の生徒とは違うユニークさが求められます。例えば私の履修したビジネス学の授業では、「国内のウール産業の将来」というトピックに対し、生産量では中国に劣るものの、国内で高品質の飼料を生産し、ウールの質を保つべきだと主張しました。日本の高校で見られるような一斉テストや暗記中心の教育ではなく、答えがない問題に対し自身の観点から解決策を導く力を育成するような教育が、将来的にグローバル社会で活躍出来る人材を作るために必要ではないかと感じました。

新型コロナウイルスの影響もあり、プログラムの後半は不安な日々を過ごしましたが、幸にもニュージーランドは欧米諸国ほどの被害は出ず早期帰国を免れることが出来ました。1年間本当に様々な経験をし新たな視点で日本や社会を見ることができるようになりました。今回援助して頂いた山梨県若者海外留学育成事業に携わって頂いた全ての方に感謝し、今回の経験を生かし山梨県に貢献して行けたらと思います。

